日本の学童ほいく

みんなで読もう
目標
3万8000部

全国学童保育連絡協議会

普及拡大ニュース

2021年6月29日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

7月号は、ほいく誌をみんなに広める普及拡大強化号です！

元気が出る
みんなの取り組みを
ご紹介

地域での普及拡大の取り組み

山形の取り組み

一つひとつの学童保育で「ほいく誌」の普及拡大の輪を広げよう！

山形市のある学童保育のおたよりで、今年度は毎月の月刊誌の紹介をすることにしました。基本的に全員購読ですが、読んでくれているか少々疑問もあり、みなさんが少しでも読んでもらえるように働きかけしていきたいと取り組んでいます。

埼玉の取り組み

新年度の方針で「ほいく誌」の普及拡大を再確認！

埼玉県深谷市の学童保育では、総会で全世帯講読を決め、12部から25部に購読数を増やしました。まずは運営委員の保護者と県指導員連協作成の説明資料「子どもたちの豊かな放課後のために～『日本の学童ほいく』の購読が学童保育を支えてきた～」の文章を、市連協、県連協、全国連協の説明とともに音読。理解してもらったうえで、総会でも、この資料を活用して説明しました。

なかでも、連絡協議会の働きかけで「新型コロナウイルス感染症」対策の補正予算の補助金が獲得できたことは、保護者の理解を促すことにつながったのではないかと思います。

岩手の取り組み

みんなでつくるほいく誌、子どもも保護者も指導員も楽しみにしています！

滝沢市のある学童保育では、2020年度から、ほいく誌に投稿するためのポストを設置しました。みんなの絵や作文をこのポストに書きためて、全国連協へ送ります。毎月、ほいく誌が届くと、子どもたちがまっさきに、「今月、誰か載ってない？」と集まってきます。「あっ、そういえば私、先月、クイズに当選したよ！！　名前載ってた」「えっ、それ教えてよ。やっぱり出してみるものだよね。すごいね」と、会話がはずんでいます。

日本の学童ほいく 7月号

特集　一人ひとりが安心して過ごせる人数に ―集団の規模を考える

「学童保育の役割を果たす」「子どもに安全で安心して生活できる生活内容を保障する」うえでは、「安全に安心して生活できる『子ども集団の規模の上限』を守った学童保育を必要な数だけつくり、整備すること」が必要です。今回の特集では、各地の改善に向けた取り組みを交流し、そのことの大切さをあらためてたしかめあいます。

全国学童保育連絡協議会

日本の学童ほいく 普及拡大ニュース

みんなで読もう目標 3万8000部

2021年6月29日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

神奈川県横須賀市●指導員から

2021年5月号の「表紙の絵 ギャラリー＆クイズ」の感想です。

季節感豊かな作品ばかりでとても楽しいです。躍動感のある動物たちの動きや表情があたたかみを感じさせてくれていますね。

朝顔の鉢植えの虫や七夕の短冊、餅つきの杵が玩具だったりと、思わず笑みのこぼれる作品ばかり。子どもたちの髪型にも懐かしさをおぼえます。クイズも楽しめて、とてもおだやかな気持ちになれました。

福島県いわき市●指導員から

2021年2月号の「子どものひろば」を読みました。なかでも岩手県花巻市の4年生のお子さんが描いた絵に、私は目を奪われました。

3頭の牛たちが見守るなか、必死に走るネズミが前方を走る牛へとバトンを渡そうとしている場面です。シチュエーションは異なりますが、毎年年末に大阪の通天閣で行われる、干支の引き継ぎ式を楽しみにしている私は、「この子はそれを知っているのかな？　それとも、こんな夢を見たのかな？」とあれこれ思いをめぐらせて、とても楽しい気分になりました。

毎号、このコーナーでは、さまざまな学童保育の子どもたちが思い思いの絵や文章を紹介してくれるので年齢・地域などを問わずさまざまな発見ができます。掲載が決まった子どももよろこぶでしょうし、周囲の話題づくりのためにも、コーナーの存続を願っています。

私と「ほいく誌」

全国連協役員リレー執筆・今月は奈良県の中野明彦さん

私にはとても大切にしている『日本の学童ほいく』誌の記事があります。それは1998年12月号、自治体の施策紹介のコーナーに掲載された、奈良市連協の元事務局長・会長だったKさんが書かれた「奈良市の学童保育」の記事です。掲載されてから22年が経過しています。奈良市の学童保育（バンビーホーム）の当時の状況、歴史的経過がまとめられているものです。

【歴史的経過】

1963年に奈良市学童保育設置運動連絡協議会を結成。64年飛鳥・済美・佐保の3ホームを開設。これらは公設公営の学童保育としては全国で三番目に開設されたものでした。70年、奈良市学童保育保護者会協議会を結成。1980年には市内の学童保育が20か所になる。それ以降は、保護者会の取り組みや行事をめぐる市とのやりとりの数々が記されており、親たちがその都度、市に対して自らの要望を届け、実現を求めてきた経緯が紹介されています。（中略）

1989年には、対象児童を低学年までとし、高学年への受け入れを行わない方針が示されましたが、市連協は13,500筆の署名を提出し、その後も取り組みを続け、91年に5年生以上の入所が認められることになりました、とあります。

私の子どもが学童保育に入所した時、奈良市の学童保育では、放課後・保育に欠ける（共働きやひとり親世帯）、6年生までの児童が全員入所でき、保育料は無料で公設公営で運営されていました。当時はこれが当たり前と思っていましたが、ほいく誌に接し、全国各地の状況をうかがうなかで、あれ、これって普通じゃないんだ、これって先輩たちが声を届けつづけて、維持向上してきたから今があるんだと思うことができました。このような保護者や指導員のキラキラ光る実践がちりばめられた『日本の学童ほいく』から、一人ひとりが大事に思える記事を見つけ出してもらえたらいいなと思います。

編集・発行　全国学童保育連絡協議会　〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-13　TEL●03-3813-0477　FAX●03-3813-0765
E-mail●zghrk@xui.biglobe.ne.jp　http://www2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou